

今回は津山城の天守の基礎について検討します。前々回に検討したように、津山城の天守の高さは石垣を除いて約22メートルという大きなものでした。この大きさを支えるための基礎も、当然のことながら相当しっかりしたものでなければなりません。

津山城の発掘調査はこれまで本丸御殿周辺の調査を主にしてきましたが、本丸御殿の礎石はそのほとんどがすでに失われており、現在はそのこん跡を残しているのみです。

一方、天守台については数年前に地下の穴蔵部分の土砂を除去しており、そのときに礎石を確認しています(写真1)。



写真1 天守台穴蔵のようす(上空から)

写真1の左下に見える石段は、廃城令により明治8年ごろまでに天守をはじめとするすべての建物が失われた後に付けられたものであり、当初からあったものではありません。本来は地下の穴蔵から木の階段で一階に上がる構造になっていました。

この写真からは、穴蔵に上面の平らな礎石が列状に並んでいるようす、さらに穴蔵の外周に沿って並んでいる礎石列とその内側に一回り小さく並ぶ礎石列が確認できます。

これらの並びを、絵図面(写真2)と比較してみます。絵図面で格子目状に描かれ

津山城百聞録

48 津山城の天守3 天守の礎石

ている部分は敷石ですが、残念ながらその敷石は現在は失われています。黒い四角が柱を示していますが、この柱の並びと写真1の礎石列の並びを比較してみると、図面に示された柱の位置と礎石列がほぼ一致していることが分かります。

また写真2の絵図面では柱と柱の間がつかっているように描かれています。恐ら

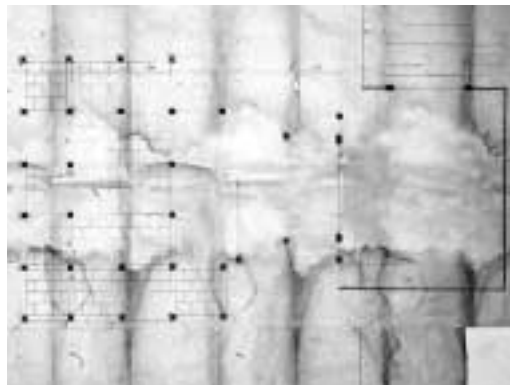


写真2 天守台穴蔵の絵図(津山城資料編より)

く写真1の礎石列の上に直接土台の木を置いている表現と思われます。

これらの資料から天守の基礎の構造を整理してみると、柱が並び位置に礎石列を配置する 礎石列の上に土台の木材を設置する 土台の木材の間に敷石を配置する 柱を建てるという順序で構築されていたことが想定されます。ちなみに別の図面によると、これらの柱は「一尺二寸五分角」と記載されており、約38センチメートル角もの巨大な柱であったことが分かっています。

このような工法は単純に柱の位置に礎石を配置して柱を建てるよりもはるかに頑丈な構造であり、現在復元整備中の備中櫓もの敷石以外は同様の構造になっています。備中櫓に使用されている柱は、天守に使われた柱の約半分の6寸から7寸角程度です

気晴らしにグリーンヒルズへ出かけました。2月の寒空なのにトリムの森には元気に走り回る大勢の子どもの姿が。もうすぐ春です！お城山の桜も咲きます！そして築城記念事業が始まります！私も子どもたちに元気をもらってがんばろう。(郁)

暖かな春の訪れはうれしいですが、漏れなくスギ花粉がいつてくるのが恨めしいです。お茶を飲んだりヨーグルトを食べたり。毎年いろいろあがいています。花粉症にめげず築城イベントに出かけるためにも、今年は…さどうしましょ？(e)

近ごろ、上の子どもはお手伝い好きになりました。寝る前に歯ブラシを持ってきてとお願いしたところ、歯磨き粉がきつちりと付けてありました。ありがとつと言って歯を磨くと、「オエツ」。お姉ちゃん、これは洗顔剤でしょ。やっぱり自分でしよう。(ひ)

編集後記

ひとの動き

(2月1日現在)

| | |
|-----|-----------------|
| 人口 | 90,188人(前月比+53) |
| 男 | 42,959人(同+6) |
| 女 | 47,229人(同+47) |
| 世帯数 | 34,869世帯(同+7) |

1月中の異動数

| | | | |
|----|------|----|------|
| 出生 | 96人 | 死亡 | 74人 |
| 転入 | 274人 | 転出 | 243人 |

3月

2004

編集・発行 津山市企画部行政広報室
〒708-8501岡山県津山市山北520
☎0868-23-2111(代) 32-2029(直通) ☎0868-25-0263
Eメール kouhou@city.tsuyama.okayama.jp
津山市ホームページ <http://www.city.tsuyama.okayama.jp/>
(PDFファイルで全紙面を掲載しています)

発行日 毎月10日
印刷 株式会社 廣陽本社

